

小林純也（著）

脳卒中患者だった理学療法士が 伝えたい、本当のこと

山 本 伸 一

（山梨リハビリテーション病院，作業療法士）



著者の小林純也氏との初めての
出会いは、2016年春の東京でのセ
ミナーである。受講生は、PT・
OT等が200名ほどだっただろう
か。講師は3名。私は、講義担当
であった。氏は「患者モデル」と
してご登壇し、著名PTによる
デモンストレーションの対象者。
大勢の前であったが、運動療法を
通して身体反応がみるみるうちに
変化したのを覚えている。休憩時
には氏と控え室で話をさせていた
だいた。非常に素直で、また物お
じしないおおらかさをもったさわ
やかな青年という印象を受けた。
その後はSNSでも友人となり、
お互いの情報を共有させていた
でいる。医療・介護・他職種・
学生、当事者団体等と幅の広い視
野をもった氏の、型にはまらない
講演活動等には驚くばかりだ。

またいつか一緒に仕事がしたい
と思っていた矢先、その氏から連
絡が入った。「書評をお願いします
と。すでに出版されていたこと
を知ってはいたが、『脳卒中患
者だった理学療法士が伝えたい、
本当のこと』というタイトルにま
ずは目を奪われた。当事者とし
て、そしてリハ専門職のPTとし

て、脳卒中を語る書籍である。三
輪書店から郵送されると、すぐさ
まに興味津々で本を開いてみた。

患者の主観を7つのカテゴリー
で分け、本音トークである。それ
ぞれ「入院中の本当」、「退院後の
本当」、「運動麻痺の本当」、「感覚
障害の本当」、「運動失調の本当」、
「高次脳機能障害の本当」、「患者
の心の中の本当」である。中枢神
経系から運動解剖学知識等も随所
に盛り込まれ、「まとめ」の項目も
あり、脳卒中を理解することに関
しても非常に読みやすい。そして
何より、「ちょっとブレイク」コー
ナーでは、「どん底から希望に満
ちた未来へ」進む体験を、身をも
って執筆されている。私は心が躍
った。あっという間に読み終えた。

「あとがき」にこう記してあ
った。「脳卒中はある日突然大切
なものを奪っていきます。半身の自
由、明瞭な思考、流暢な言語、や
りがいいある仕事、大事な収入、
大切な夢……。唐突に、容赦なく
世界を自分とそれ以外に切り離
していきます。そんな時、支えと
なってくれるものが家族・仲間
との大切な絆なのです。（中略）
一人では生きていけないのです」と。

脳卒中という病気を乗り越えたこ
と、そして今回、書籍を完成させ
たことには、氏の絶え間ないご努
力があつたのはもちろんではあ
る。だが奥様やご両親、すべての
関係者の支えが彼を奮い立たせた
ことは間違いない。経験された
方々にしかわからないことがあ
る。しかし文章を通してご教授い
ただくことで、ほんの少しは理解
できる。

ひとりの勇気は、みんなの力な
り。

この書籍からモチベーションと
パワーをいただいた。セラピスト
の私たちだからわかること。そし
てできること。あらためて多くの
ことについて、考えさせられた。

小林先生。先生がご経験された
ことは、きっとこれからも語り継
がれることでしょう。そして、こ
の書籍はリハにかかわるすべての
方々のバイブルになると確信しま
した。ご執筆、お疲れ様でした。
ありがとうございました。

〔 四六判 300頁 2,500円+税 〕
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357